

地理歴史科（世界史探究）学習指導案

1 単元名 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国

この単元は、「2 内容」の「D 諸地域の結合・変容」の「(3) 帝国主義とナショナリズムの高揚」に該当する。

2 単元目標

- (1) ヴェルサイユ体制とワシントン体制の内容を理解する。
- (2) 「民族自決」の理解を深め、第二次世界大戦が勃発した要因について考察する。
- (3) 戦間期の歴史に関して、見通しをもって学習に取り組み、主体的に追究する。

3 単元計画（全体6時間）

(1) 指導計画

| | |
|-------------------|----------------|
| ・ヴェルサイユ体制 | 1 時間（本時 1 / 6） |
| ・ワシントン体制 | 1 時間 |
| ・西欧諸国の模索 | 1 時間 |
| ・イタリアのファシズム、ソ連の成立 | 1 時間 |
| ・アメリカ合衆国の繁栄 | 1 時間 |
| ・第二次世界大戦の勃発 | 1 時間 |

(2) 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|------------------------------|--|--|
| ・ヴェルサイユ体制、ワシントン体制の内容を理解している。 | ・民族自決の特徴や問題点を整理し、第二次世界大戦が勃発した要因について考察している。 | ・戦間期の歴史に関して、見通しをもって学習に取り組み、主体的に追究している。 |

(3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

| 次 | 学習内容 | ねらい・学習活動 | 評価の観点 | | | (B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援 | 評価方法 |
|------------|---|------------------------------|-------|---|---|----------------------------|---------|
| | | | 知 | 思 | 態 | | |
| 第1次 (1) | <単元を貫く問い> 「なぜ第二次世界大戦は勃発したのか」 【学習課題】「民族自決の理念の問題点はなにか」 ・ヴェルサイユ体制 | 【ねらい】戦間期の学習に対する理解を深める。 | | ○ | ○ | 3 (4) ア参照 | ・ワークシート |
| 第2次 (1) | 【学習課題】「ワシントン会議を開催した米国の意図は何か」 ・ワシントン体制 | 【ねらい】ワシントン会議で結ばれた条約の内容を考える。 | ● | | | 【知】ワシントン会議の内容について理解している。 | ・授業プリント |
| 第3次 (1) | 【学習課題】「ドイツで発生したインフレ要因は何か」 ・西欧諸国の模索 | 【ねらい】歴史的なインフレーションの背景や原因を考える。 | | ● | | 【思】歴史的なインフレが発生した要因を考察している。 | ・授業プリント |
| 第4次 (1) | 【学習課題】「ソ連の成立に向けての過程とその後をまとめる」 ・ソ連の成立 | 【ねらい】ソ連の成立過程について理解する。 | ● | | | 【知】ソ連の成立過程を理解している。 | ・授業プリント |
| 第5次 (1) | 【学習課題】「1920年代のアメリカ社会の光と闇をまとめる」 ・アメリカ合衆国の繁栄 | 【ねらい】アメリカ社会の繁栄と課題を考える。 | | ● | | 【思】繁栄したアメリカの課題について考察している。 | ・授業プリント |

| | | | | | | |
|------------|--------------------------|----------------------------|--|---|-----------|---------|
| 第6次 (1) | 【学習課題】「なぜ第二次世界大戦は勃発したのか」 | | | | 3 (4) イ参照 | ・ワークシート |
| | ・第二次世界大戦の勃発 | 【ねらい】二度目の世界大戦が起こった要因を理解する。 | | ○ | | |

(4) 評価規準

ア ワークシート1の評価規準【思考・判断・表現】

ワークシートの内容

民族自決の理念に関する資料を読解し、その問題点を記述することができる。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例

・民族自決の理念の適用がヨーロッパに限られ、他の地域には波及していないことを記述している。

「十分満足できる」状況（A）と判断される例

・民族自決の理念の適用がヨーロッパに限られ、他の地域には波及していないことに気付いた上で、民族自決の理念が他の反乱や事件に結び付いていることを記述している。

「努力を要する」状況（C）と判断される例とその生徒への支援

・民族自決の問題点を記述することができない。→民族自決の意味を確認し、再考を支援する。

イ ワークシート3の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

ワークシートの内容

第二次世界大戦を防ぐための方策を既習事項と結び付けて記述することができる。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例

・既習事項と結び付けて方策を記述することができている。

「十分満足できる」状況（A）と判断される例

・既習事項と結び付けるだけでなく、さまざまな観点から方策を記述することができている。

「努力を要する」状況（C）と判断される例とその生徒への支援

・方策を記述することができない。→授業の振り返りを支援し、方策を考えられるように促す。

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

ア 民族自決の理念の問題点に関する資料の読解し、その問題点を記述することができる。

イ 第二次世界大戦が勃発した理由について、自らの見通しをもつことができる。

(2) 本時の展開

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

| | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点・評価 |
|-----|---|---------------------------------|--------------------------|
| 導入 | ・戦間期の歴史 | ・第二次世界大戦に影響がある考えた出来事を三つ選ぶ。 | ・年表の「国際問題」に特に注目するよう指導する。 |
| 展開1 | 【単元を貫く問い】「なぜ、第二次世界大戦は勃発したか」 ・単元を貫く問い | ・歴史総合での既習事項や、年表を基に、現段階での予想をする。 | |
| 展開 | ・民族自決 | ・民族自決の定義を理解し、Question 1～4に取り組む。 | |
| まとめ | 【学習課題】「民族自決の理念の問題点は？」 ・振り返り | ・民族自決の問題点を記述する | ○ワークシート1 【思考・判断・表現】 |

(3) 本時の評価規準

3 (4) 参照

5 成果と課題

単元を貫く問いを、既習事項を活用できるものにしたことで、生徒の授業への取組意欲が増した。第二次世界大戦が勃発した要因を記述する時間を二回設けた（戦間期の前半を学習した後、戦間期の後半を学習した後）。二回目に記述する時間では、勃発した原因を挙げ、第二次世界大戦を防ぐにはどうすればよかったのかを考える時間としたが、生徒が単元の始めに立てた予想を深めたり、再考したりする機会となり、深い学びを促すことができたことが今回の成果である。

当初、「主体的に学習に取り組む態度」を評価するためにワークシート2を用意した。「第二次世界大戦が勃発した要因」を毎時の授業の振り返りを活用しさまざまな観点から記述できたかどうかを評価規準としたため、生徒は一つの正答を求めるあまり、単元の始めに立てた予想と比較したり、自ら考えを深めたりすることができなかつた。そこで、ワークシート3を新たに加え、「第二次世界大戦を防ぐにはどうすればよかったか」を考える場面を設け、生徒が自らの考えを深められるように工夫した。この場面では、第二次世界大戦が勃発した要因をドイツのポーランド侵攻だけでなく、1919年に構築されたヴェルサイユ体制に求めることで、より長期的な視点で大戦を防ぐための方策を考えた生徒がいたので、単元の指導を進める中で、生徒の学習状況を見取って指導を改善することの大切さに気付くことができた。